

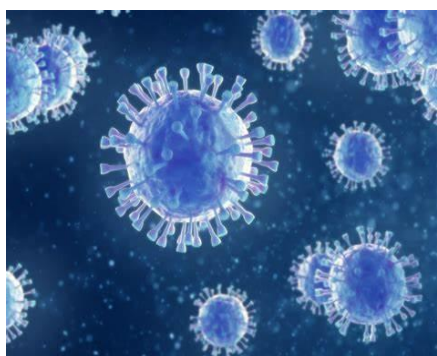


特定非営利活動法人 ふくおか環境カウンセラー協会 会報

第19号 2021.3.30

【新型コロナウイルス禍での活動特集】

いつもの生活ができなくなった 2020 年！



突然の新型コロナウイルスの到来！
学校も職場も家庭も地域も、社会全体が、いつものことができなくなりました。たくさんの方ができない中で、この一年を、皆さんはどんな風に取り組みましたか？コロナ禍で、何がどう変わったでしょうか。皆さんの報告を特集しました。



コロナ禍における自己研鑽の新たな方法について

会員 久志 唯

今年度はコロナ禍により不要不急の外出の自粛が求められ、人と直接会って話をしたり、同じ空間で研修を受けたりするという機会がほとんどなかった1年でした。一方、ZoomなどのTV会議システムが急速に普及し、本来東京に出向いてしか参加できなかったセミナーなどがオンラインで公開され、自宅にいながらそのセミナーを受けることができるという機会が増えました。これまでは都市と地方で機会の格差があったように思いますが、こうした格差が是正されたことは大変ありがたいことだと思っています。

今年度に入って、様々なオンラインイベント（ウェビナー、シンポジウム、ワークショップ、映画上映など）に参加しましたが、この中で特に印象的だったワークショップとオンライン講座についてご紹介します。

●「2020 年度次世代エネルギーワークショップ」

「30年後のエネルギー選択を考える」をテーマに、40歳以下の若手社会人を対象としたオンラインワークショップ（全3回）に参加しました。事前勉強や専門家のレクチャー後、毎回6人程度のグループに分かれてテーマに沿ってグループ討議を行うものです。オンラインでグループ討議をどのように行うのだろうかと思っていたのですが、Zoomでお互いの顔を見つつGoogleスライドの付箋を使って意見を出し合っ
てまとめるなど、従来型のグループワーク（KJ法）と同等のことができました。この方法だと移動せずに新型コロナウイルス感染の恐れもなく、実際に人と会うのと同様のことができるため大変参考になりました。

●「OpenLearning, Japan オンライン大学講座」

大学の先生方によるオンライン授業を、好きなタイミングに無料で受けられるサービスです。このサービス自体は以前からあったようなのですが、恥ずかしながら今回初めて知り受講しました。私が受けた授

業は九州大学の竹村先生による「気候変動と大気汚染の入門」という授業で、10分程度の講義動画を5本見た後、その講義に関する確認テストを受けるという一連の流れを計3回実施するというものです（全部で動画が15本あります）。また最終確認として、今回の講義全般に関する確認テストを受けて、すべての確認テスト合わせて100点満点中60点以上獲得すれば、



修了証書がもらえます。講師への質問はサイト内にスレッドが準備されており、自分の好きなタイミングで質問でき、講師から直接回答してもらえるシステムとなっていました。

講義は10分程度の動画で集中力も続きやすい上、自分の受けたいタイミングで視聴できるということもあり、大変いいシステムだなと思いました。また、講義の確認テストがあるため、ただ授業を受けるだけでなく緊張感をもって勉強することができるのもよかったです。

この1年で、それまでその場に行ってしか体験できなかったイベントに、新たなオンラインという方法が加わりました。今後もし人の移動や接触が全面的に解禁されたとしても、研修やシンポジウムなどは会場参加とオンライン参加の2種類が選択できるようなやり方になっていくと思います。今後も機会を見ながらオンラインイベントに参加し、自己研鑽に励みたいと思います。

コロナ禍の2020年度を振り返って

会員 大平 裕

2020年3月に環境省福島地方環境事務所の任期満了を迎え、帰福の段取りを始めました。

クルーズ船乗客にクラスターが発生するなど世間がざわつきはじめ、任地の福島県いわき市でも聖火リレーの国内スタートも急遽延期、県立磐城高校が46年ぶりに出場する春の甲子園も中止、町の灯が消えたようになりました。

東京がロックアウトになるのではなどの風評もありましたが、予定どおり3月28日に上野駅近くのビジネスホテルに入り安心。テレビをつけるとホテルの近くの病院でクラスター発生のニュース速報が入りました。

翌夕に羽田空港発の便を予約しており、上野公園の美術展でも見てから帰ろうかなどと考えておりましたが全て中止、桜の通り抜けも警戒線が張られて立入禁止でした。

福岡に戻り、福岡県地球温暖化防止活動推進センターで勤務しました。

ご存じのとおり予定していた環境イベントはほぼ中止で、推進員さんたちとの連絡会もWEB会議による開催が数か所にとどまりました。

それでも、うちエコ診断は受診家庭・診断士・行政が互いに協力して、パーティション+モニターによる対面診断、プロジェクターを用いた対面診断、ZOOMによるリモート診断などの新しい方策を行い、例年の1/10程度の件数でしたが実施することができました。皆様の創意工夫に感謝です。

私事になりますが皆様の御推薦により、2020年6月に、福岡県環境保全功労者の県知事表彰をいただきました。マスク着用の写真も2020年らしい思い出です。





コロナ禍での大学教育

会員 垣迫 裕俊

コロナ禍により、多くの大学で急遽遠隔授業が導入された。大学によってその度合いは異なり、県内でも「A大学はほとんど遠隔」「B大学は、半分くらい対面」といった情報が関係者の間で飛び交った。私の所属する九州産業大学地域共創学部は、比較的対面に拘った方だ。私自身も一時期はもっぱら遠隔授業を強いられた（zoomを利用）ものの、後期はほとんど対面を基本とし、あわせてYouTubeで配信するというスタイルであった（まさかこの齢でユーチューバーの真似事をする事になるとは！！）。

今回のコロナ禍は、大学教育に関して多くのことを考えるきっかけになった。まず、遠隔授業のテクニックを使えない教員はいずれ淘汰されそうだ。少なくとも肩身が狭い。私も若手教員に素直に教えを乞い、手取り足取り状態でなんとかこなしてきたが、実に疲れた。一方で、多くの遠隔授業ツールの登場でIT関連企業が大きなビジネスチャンスを獲得したことはともかくとして、「手段」であるITスキルが、「目的」化したかのような様相も一部に見られた。「教育の本質は対面だよな」と年配の教員が悔しさ半分で語りあう姿も。学生のスキルも個人差が大きく、またスマホのみで授業を受け続ける学生が多いことにも驚いた。

深刻なのは、遠隔授業でもかなりの教育効果が達成されることが実証されたことだ。自主的な学習態度が身につけている学生ほど遠隔授業の効果が高い。意欲のある学生そして社会人が日本全国さらには世界中の著名教員の授業を遠隔で受けることができるのであれば、大学に通う必要性が薄れ、我が国の800近い大学そして約17万人の教員は明らかに供給過多になりそうだ。すでに始まっている「サイバー」大学の一層の興隆が予想される。今後18歳人口が急減することは明らかであるが、今回、「リアル」大学の危機があぶりだされたといえる。

私は公務員退職後に最後のご奉公で大学教員を務めている気軽な身であるが、若い先生たちは大変だなとつくづく感じるコロナ禍である。

マスクで口が見えない！ パソコンではアイコンタクトが取れない！



会員 森本 美鈴

今回のコロナ禍による社会の変化は驚くことばかりです。しかし、ほとんどすべての会議や講義などが、Zoom等を使ったテレワークになり、それらはかなり有用でした。

特に、環境カウンセラーに義務付けられている環境省の研修は、都合の良い時間に受けられ、後日、選択以外の講座も受けられる新方式はすごいと思いました。今後もずっと続けて欲しいです。

その他、所属している組織・団体等の会議はもちろん、環境省の気候変動影響評価報告書公表記念シンポジウムをはじめ、様々な専門分野の約10講座を自宅で受講できました。

Zoom会議での参加者は原則ミュートなので、玄関でチャイムが鳴っても安心。リビングが散らかっていても、バックを好きな写真に設定すればいいし、楽ですね。県の審議会・協議会等は書面審議でした。今後は、対面せずに実施する会議や受講も当たり前になるのでしょうか。

それから自身がZoomによる講義をしてよかった点は、質問者の声がパソコンから出て、挙手が掌型画像でわかることです。実は私は生まれつき片耳が全く聞こえません。モノラルなので方向がわからないという難点があります。対面講義だと、挙手の声がどちらから上がっているかわからず、受講者から見ると、あらぬ方向を見ていることがあります。また、重要な点は、片耳を補うために、いつも相手の口を見ていることです。なので、マスクは脅威です。口が見えない！その点、Zoomの音声は有難かったですが、今度はアイコンタクトが取れません。それはまた、脅威です。たとえ、マスクをしていても、対面なら、目と

目で真の意思を確認し合うことは可能です。

機器を通したもので目的は達せられても、私たちは本当に話していると言えるのでしょうか。これからの社会の変化、意思や情報、スキルの伝達に、いかに人間の魂を入れ込むかは、必要不可欠な課題となるのではないのでしょうか。

コロナ禍における大学講義や地域イベントについて調査を実施

会員 依田 浩敏

私が勤務する大学学部では、新型コロナウイルス（COVID-19）対策のため、前期は全てリモート授業、後期はリモート授業継続で週1回のみ対面授業となりました。リモート授業の講義資料を新たに作成するという大変さはありませんでしたが、Zoom、Google Classroom や Google Form を活用した方法は、今後にも役立つと期待しています。関連して、リモート授業を受講している大学生を対象としたアンケート調査を実施してみました。室内環境の満足度と、授業受講に対する集中度や、部屋の室内環境がリモート授業を受ける上での集中力に与える影響に対する意識には相関があることが明らかになりました。

また、窓開け換気の効果を見るために、市役所本庁舎や小中学校の教室において、温熱環境や空気環境の実測を行いました。建築物環境衛生管理基準によると、二酸化炭素濃度は1,000 ppm 以下と定められています。機械換気が充分に行われている場合は特別に窓を開けなくても基準を満たしていましたが、教室は窓開けによる換気が必要であることがわかりました。

COVID-19 により、当協会も定例会などが開催できず、今年度の活動が停滞してしまいました。実行委員長を務めている「I LOVE 遠賀川」の河川清掃活動も中止になりました。そこで、ポストコロナ時代における地域イベントの活性化のために、今年度実施されたイベントの成功例を調査しました。地域特産物販売はネット販売やドライブスルー、体験イベントはリモート・少人数制で実施、ステージイベントはネット配信、観光・展示は整理券配布、神事はオンライン参拝など、形態を変えての実施が見られました。



協会の事業や環境保全活動を継続していくために、どのような方法で行っていけばいいのか、会員の皆様と模索していきたいと思っています。

コロナ禍での環境教育活動

会員 川島 伸治

昨年からの新型コロナウイルス感染症（covid-19）の世界的な猛威に関しては皆様ご存じのとおりであり、あえて詳述するまでもないと思います。このような情勢によって青い地球の会ブルーアース、或いは私の個人的な環境教育活動はかなりの制限を受けました。そんな状況下でもささやかに行った事柄を紹介させていただきます。

1. 寺子屋を始めました！

持続可能な社会を目指して子どもたちの教育環境の現状に懸念を抱く他団体とともに、様々な理由から学習塾に行きたくてもいけない子供たちを対象とした「寺子屋」のような学習支援活動を昨年秋から始めました。週に2日、仕事終わりの3時間程度、北九州市内の黒崎と八幡で開催しています。金銭面のことや学習への障害があるなど子どもたちの事情は様々で、小学生から高校生までの受け入れを考慮しており、現在は小学生と中学生、今度高校に入ったなど数名が通っています。

子どもたちも諸都合で毎回参加できるとは限りませんが、コンセプトとしては「教える」というより「見

守る」というものに近いのではないのでしょうか。学生時代にアルバイトで家庭教師をやったことがありますが、正直、いまは記憶の奥底を探りながら質問に答えたり、冷や汗をかいたり奮闘しています。

2. エアー旅行をしてきました！

ちょっと前は「エアーギター演奏」などでしたが、いまではVR（ヴァーチャルリアリティ）が全盛の時代。そんななか昨年12月に宗像市のグローバルアリーナにおいて「オンラインでつなぐ！韓国ESDスタディツアー2020」（企画・運営：北九州ESD協議会 調査研究・国際プロジェクト）を行いました。毎年行っているスタディツアーですが、今年は初のオンラインによる実施となり、ソウル特別市の道峰区（ドボン区）と韓国北東部の江原道（カンウォンド）北部に位置する麟蹄郡（インジェ郡）とつなぎました。いずれもESDを実践する地域として国連大学からRCEの認定を受けています。土曜日と日曜日にそれぞれ片方ずつとZOOMでつなぎ、パワーポイントやビデオを使ってコロナ禍での活動報告や質疑応答などの交流を行いました。また、事前学習として、①「韓流映画『82年生まれ、キム・ジヨン』から韓国文化に触れる」、②「RCEインジェ作成2030アジェンダの漫画本を翻訳し韓国の取組みを学ぶ」、③「ESDfor2030から学ぶ」という3回の講座を北九州ESD協議会調査研究・国際プロジェクトのメンバーが講師となって行いました。

最後に、持続可能な社会を目指すなかで「ESD for 2030」ではSDGs達成に向けてESDは貴重な鍵であると言われています。私に出来る範囲に限られますが、自分で考え行動できる人材育成を念頭に、教育という側面からキーコンピテンシーの重要性を追求できればと思いつながりながら活動を続けていきます。



九州初！ 佐賀県第1号「体験の機会の場」の認定

いまり「こまなきの里山」での活動

会員 田中 和生

環境省「体験の機会の場」の認定制度とは、所有又は賃貸借契約等を結んで使用している土地又は建物を、自然体験活動や社会体験活動等の体験の機会の場として提供する場合、申請を受けて、都道府県知事等が認定する制度です。認定した体験の機会の場をインターネットを通じて公表することにより、自然体験活動・社会体験活動等へ参加しようとする人による、ニーズに合った場へのアクセスを円滑化することなどを目的としています。

○期日：令和2年11月22日 ○場所：伊万里市大川町駒鳴

九州で初めての認定を受けた体験の機会の場である、いまり「こまなきの里山」における環境学習イベントを開催致しました。コンセプトは「森で遊び、生物と触れ合う機会や参加者同士のコミュニケーションを通じて、自然と共生する感性や知恵、工夫を楽しみながら体験してもらう」というものです。



当日の流れは、注意事項や主催者挨拶の後に当社の社員（環境カウンセラー・ビオトープ管理士・環境インストラクター）が里山とは何か、生態系とは何かについての講演を行い、その後は実際に森の中を散策しながら生き物の話をし、イノシシのヌタバや足跡などの観察を行いました。散策する中で、子供たちも見つけたことのある植物の話などを楽しそうに話してくれ、薪に使う木の年輪がそれぞれの木で違うことに気づいたり、貴重な体験が出来たようです。

今回のイベントは、募集人数15名に対し24名の方々から申込をいただき、県外からの参加者もいらっしゃいました。参加者からは、「楽しい体験ができた。」「心身ともにリフレッシュできた」「コロナ対策がきちんとされ安心して参加できた」など、とても好評でした。



【新型コロナウイルス感染防止対策】

- ・受付時の手指消毒の徹底
- ・検温(体温37°以下の人のみ参加可能)
- ・3密対策としてソーシャルディスタンス(椅子の間隔2m)

今後は、四季折々の自然の移り変わりを体感してもらうため、季節ごとの環境学習イベントを企画しています。

※環境教育インストラクター；野崎 忠秋

※環境カウンセラー；力武 和夫・田中 和生

【公式ホームページ <https://komanaki.jp>にてお知らせいたします】

報告者 朝日テクノ株式会社 羽良 麻美



環境カウンセラー事業者部門

活動報告

「木材利用研究会佐賀」10年目の木杭引き抜き

会員 大宅 公一郎

佐賀平野のクリーク水路、約1500kmの護岸整備では平成24年度より間伐材を利用しています。洪水時の排水も受け持つ幅20mの幹線クリーク水路はコンクリートの杭とパネルで、またはセメント系固化剤による地盤改良工法で護岸を補強しますが、幅が10m程度のクリーク水路では、工事費を抑えるために県産杉の間伐材を利用しています。ただクリークの水面近くでは乾湿の繰り返しや酸素が多く木杭や柵板に腐朽菌が繁殖し腐れやすいため、長持ちさせるための方策を県の農林事務所、林業試験場と一緒に研究しています。

コロナ禍ではありましたが昨年10月に、打ち込み後10年目の引き抜きを行いました。引き抜き後すぐに林業試験場へ運び、ピロディン値試験（針を打込み腐朽深度を測る）や、ファコップ値試験（叩いて振動の伝搬速度を測り腐朽の度合いを調べる）や、輪切りにして水深ごとの含水量試験などを行いました。

農家の皆さんは腐れないコンクリート杭や地盤改良工法を望まれますが、研究会では10年後に腐れてもその部分だけ補修すれば間伐材でも十分利用できることを示そうとしています。

工事では1m毎にφ20cm、L=4mの杭を打ち、杭の間には横杭を通し、幅25cm、L=2mの板材を4枚並べて打ち込み土留めとします。

例えば1000mの護岸工事では、両岸では約5000本を利用します。現状の山で植栽が2m間隔なら、1haでは2500本植わっており、間伐率を1/2とすると1haでは1250本、集材できます。したがって1000mの護岸工事では5000本÷1250本/ha=4haの間伐が進みます。

昔は土木工事では、石垣の基礎や木橋など木材が主に利用されていたので、その復活を目指しています。

報告者（株）親和コンサルタント 大宅公一郎、福岡 仁



「私たちの未来環境プロジェクト」の活動

会員 池本真一

皆様、こんにちは！日頃より市内外で大変お世話になっています「私たちの未来環境プロジェクト」に所属している池本真一と申します。コロナ禍の中、体調変わりなくお過ごしでしょうか？今は「辛」を抱える時期と共に先を見据える時期でもあるかと私たちは公私共に考えています。

まず初めに私が所属する団体紹介をさせていただきます。団体名の由来は→私たち：市内外、老若男女の全ての人、→未来：次世代→環境：自然環境・社会環境・経済環境など。広義ではESD：持続可能な社会、→プロジェクト：何らかの目標を達成する為の計画（キッカケ）からきております。活動場所は北九州市内が主となり山田緑地・馬島（離島）・中原海岸周辺等です。

団体メンバー構成も市内・近郊、会社員から自営業の方々まで男女比率は大体同じで中年層が主です。

活動内容は主に自然観察・清掃活動・色々な鬼ごっこ&クッブ：スポーツ鬼ごっこやクッブ（薪当てゲーム）・プログラミングに取組んでおります。活動の背景には私たちも含めて世代間問わずコミュニケーション不足・体力低下等が挙げられます。活動を通して他人を思いやる心（利他の心）の醸成・コミュニケーションの促進や健康寿命の増進が図れればと考えています。他人事は自分事・頼まれ事は試され事として捉え筋を通す（プリンシプル）、関わる皆様の長所を見出し内なる力（レジリエンス）が引き出せる活動が出来ればと感じています。



日常生活において私たちを取り巻く自然環境・社会環境・経済環境等は目まぐるしく変化し社会課題も潜在化から顕在化、多様化しています。私たちは老若男女問わず持続可能な社会の実現を目指すキッカケをつくる為、出来る範囲で出来る事から次世代へ繋ぎ、継続・実践していきます。

追記：今年度はコロナ禍により例年通りの活動が出来ず残念でした。

表彰

受賞おめでとうございます！！

依田浩敏理事長が、またも環境大臣表彰！

★「令和2年度地域環境保全功労者」環境大臣表彰 ★

ふくおか環境カウンセラー協会 理事長 依田浩敏氏

【主な功績】

長年にわたり筑豊地域の環境審議会会長等を歴任し、環境行政の推進に貢献するとともに、環境に配慮した建物づくりやまちづくりに尽力している。

なお、依田理事長は、「平成29年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰 環境教育活動部門」に続いて2度目の環境大臣表彰となります。今回はコロナ禍のため環境大臣による表彰式はなく、替わって令和2年10月6日の伝達式で、片峯誠飯塚市長から表彰状をお受け取りになったそうです。

★「令和元年度福岡県環境保全功労者」県知事表彰 ★ >

ふくおか環境カウンセラー協会 大平 裕氏

【主な功績】

平成9（1997）年から平成29（2017）年まで、（一財）九州環境管理協会で、ダム予定地等の自然環境調査や福岡県レッドデータブック2001の事務局及び分担執筆を担当し、絶滅の恐れのある動植物の保全に寄与した。また、地球温暖化防止活動推進センターなどの職員として、推進員等の温暖化防止活動の支援、エコアクション21の審査と啓発セミナーの実施、県省エネ相談等による企業の環境活動の支援、小中学校を主な対象とした科学実験出前講座を実施することで、市民や事業者の環境活動に寄与した。

（表彰の様子は2ページに掲載）

★「地域交通安全活動推進委員表彰」★ 近藤哲司氏

通学路で登校中の児童を見守る活動を続ける福岡県飯塚市の高野山真言宗大光寺住職、近藤哲司さん（60）が「地域交通安全活動推進委員表彰」に選ばれた。緑色の服を着て活動することから「みどりのおじさん」と呼ばれる近藤さんは、「表彰はありがたいが、これで終わりではない。交通安全に役立てる活動を続けたい」と、張り切っている。

県警によると、推進委員は県公安委員会から委嘱され、ボランティアで地域の交通安全活動に取り組んでいる。近藤さんは2019年2月から務める。表彰は交通安全教育や交通事故防止に貢献した人をたたえるのが目的で県警などが毎年表彰しており、本年度は県内で42人が選ばれた。

近藤さんは平日の午前7時10分から1時間、母校の大分小近くにあるJR筑前大分駅前の交差点で旗を持ち、横断歩道を渡る児童をサポートする。近藤さんは児童に親しまれており、同小のHPでも今回の表彰を紹介している。嶋田千鶴校長は「子どもたちも表彰を喜んでいる。交通量が多い場所なので活動は大変ありがたい」と話した。（西日本新聞引用）



役員選挙

次期役員(理事及び監事)選任について♪

選挙管理委員会 委員長 近藤 哲司

次期（令和3年度～4年度）理事及び監事の選任の為、協会定款第14条及び細則3条に基づき選挙管理委員会を設置し、令和3年3月1日～15日の間、立候補者の受け付けを行いました。

その結果立候補者は何れも定款に定める定数以内である事から、選挙は行わず無投票となりました。従いまして、立候補者は次回の定期総会における議決（定款第23条6項）で正式に決定します。

☆理事： 依田 浩敏、近藤 哲司、篠原 貴美恵、森本 美鈴、川島 伸治 以上 5名
(定款での定数3名以上 10名以内)

☆監事： 大平 裕 以上 1名
(定款での定数1名以上 2名以内)

事務局より

◆会費納入のお願い

「ふくおか環境カウンセラー協会」は会員の皆様の会費で運営されています。また、全国連合会費も会員数に応じて支出しています。会費未納の方は至急納入してください。

年会費 3,000円 振込先：郵便貯金総合通帳「ぱるる」

記号 17410 番号：13271061 名前：ふくおか環境カウンセラー協会

◆準会員 並びに 賛助会員 募集

準会員：会費（1口2千円） 賛助会員：会費（1口1万円） 学会員：会費なし

発行責任者： 依田 浩敏 （編集責任者： 森本美鈴）

連絡先：〒813-0017 福岡県福岡市東区香椎照葉2-3-36

TEL/FAX:092-672-9911

メールアドレス：fecca.office@gmail.com